

死にゆく惑星と見捨てられた人々

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）は、1988年に政策立案者に厳密な気候科学の評価を提供するために設立されました。その報告書は慎重かつ交渉された文書であり、**政策立案者向け要約**のすべての言葉は、科学者だけでなく、化石燃料経済に最も投資している政府を含む各国政府によって承認されなければなりません。このプロセスは世界に知識を与えましたが、同時に錯覚ももたらしました。災害は遠く、依然として不確実性が大きく、時間はまだあるという感覚です。

しかし、真実は異なります。IPCCが今世紀末に予測していた影響はすでに現れています。人類は未来の脅威に直面しているのではなく、かつて明日の一部だと想像されていた崩壊そのものを生きています。

そして、気候の崩壊はこの盲目さが露呈する唯一の領域ではありません。**2023年後半以降、ガザの継続的な破壊は、同じように現実と向き合うことができないことを明らかにしています。犯罪が進行している間にそれを認めようとしない同じ拒絶、弁護できないものに対する同じ正当化、良心が必要な場所での同じ沈黙です。**気候と同様に、必然と扱われるものは実際にはプロセスであり、止められるプロセスですが、代わりに加速することが許されています。

死にゆく惑星と見捨てられた人々は、孤立した悲劇ではありません。それらは単一の文明の病の症状です。真実、正義、そして生命そのものを犠牲にして、制御の錯覚を維持する意志です。

現実が予測を追い越した場所

記録は明らかです。IPCCは一貫して気候変動のペースと深刻さを過小評価してきました。その予測は一般的に正しい方向を示してきましたが、現実はいずれもそれらを数十年も追い越しています。

北極海氷

- **予測:** IPCCの1990年の第一次評価報告書は、夏の北極海氷の大幅な減少が21世紀末に向かって起こると示唆していました。
- **現実:** 2020年までに、夏の海氷の範囲は1979年と比較して約40%減少しました。ほぼ氷のない夏は今後20年以内に予想されています。北極は世界平均の4倍の速さで温暖化しています。
- **参照:** 国立雪氷データセンター; Notz & Stroeve (2016); IPCC AR6 (2021)。

全球温度

- **予測:** 1995年の第二次評価報告書は、10年ごとに0.1〜0.2°Cの温暖化を予測していました。

- **現実:** 1980年以降、全球の地表温度は10年ごとに約0.2°C上昇しています。過去8年間は記録上最も暑い年でした。
- **参照:** NASA; NOAA; 世界気象機関（WMO）。

熱波

- **予測:** 2001年の第三次評価報告書は、21世紀末までに頻繁で強烈な熱波が起こる可能性が高いと述べていました。
- **現実:** 2003年のヨーロッパの熱波、2010年のロシアの熱波、2021年の太平洋北西部のヒートドームは非常に極端で、帰属研究は人為的温暖化がなければほぼ不可能だったと結論付けました。
- **参照:** Otto et al. (2021); Philip et al. (2021)。

海面上昇

- **予測:** 2007年の第四次評価報告書は、2100年までに18~59cmの海面上昇を予測しましたが、急速な氷床の動態を明示的に除外していました。
- **現実:** 観測された上昇はすでに中間予測を上回っており、現在の推定では2100年までに約1メートルの上昇が予想されます。
- **参照:** IPCC AR6 (2021); DeConto et al. (2021)。

氷床

- **予測:** 以前の報告書は、グリーンランドと南極の氷床が何世紀にもわたってほぼ安定していると示唆していました。
- **現実:** 現在、両方とも急速に質量を失っています。グリーンランドだけで年間約278ギガトンの氷を失い、西南極は加速する後退を示しています。
- **参照:** IMBIE (2020); Shepherd et al. (2018)。

永久凍土とメタン

- **予測:** 永久凍土やメタンクラストレートからの大量放出は、遠い将来、数百年にわたる可能性と見なされていました。
- **現実:** 2007年以来、メタン濃度は急激に上昇しています（年間約12ppb）。シベリアの泡立つメタン湖やアラスカとカナダの解凍する永久凍土は、すでに不安定化が始まっていることを示しています。
- **参照:** NOAA; Walter Anthony et al. (2016)。

海洋熱含量

- **予測:** モデルは安定した増加を予測しましたが、不確実性が大きかったです。
- **現実:** 1980年以来、海洋は230ゼッタジュール以上の熱を吸収し、近年は記録的な増加を示し、モデルの平均を上回っています。
- **参照:** Cheng et al. (2023)。

極端な降雨

- **予測:** AR4 (2007) は、世紀後半に強い降雨イベントが激化する可能性があるという警告をしていました。
- **現実:** パキスタン (2010年と2022年)、中央ヨーロッパ (2021年)、米国中西部での繰り返し発生した壊滅的な洪水は、歴史的基準をはるかに超える強度で起こっています。
- **参照:** IPCC AR6 (2021); Lau et al. (2022)。

大西洋子午面循環 (AMOC)

- **予測:** AR4は、弱化が何世紀にもわたって起こる可能性を示唆していました。
- **現実:** 観測では、AMOCは少なくとも千年で最も弱い状態にあります。早期警告指標は、数十年以内の崩壊の可能性を示しています。
- **参照:** Caesar et al. (2021); Boers (2021)。

山火事

- **予測:** 初期のIPCC報告書は、火災リスクを簡単にしか触れていませんでした。
- **現実:** オーストラリアのブラックサマー (2019-20年)、カリフォルニアのメガファイア、シベリア、ギリシャ、カナダでの大規模な火災は、20世紀の基準をはるかに超える火災行動を明らかにしています。
- **参照:** Abatzoglou & Williams (2016)。

生態系の崩壊

- **予測:** TAR (2001) は、世紀後半に種の範囲の移動と生物多様性の喪失を予測していました。
- **現実:** 極方向や高地への移動がすでに記録されています。サンゴ礁は、かつて徐々に劣化すると予想されていましたが、わずか30年でそのカバーの半分を失いました。
- **参照:** Parmesan & Yohe (2003); Hughes et al. (2018); IPCC AR6 (2021)。

氷河の後退

- **予測:** FAR (1990) は、ゆっくりとした着実な後退を予測していました。
- **現実:** 数千の山岳氷河がすでに消滅し、さらに多くの氷河が数十年以内に完全に消滅すると予測されています。
- **参照:** Zemp et al. (2019); IPCC SROCC (2019)。

海洋酸性化

- **予測:** AR4 (2007) は、酸性化を懸念事項として指摘しましたが、強い強調はありませんでした。
- **現実:** 海洋のpHは予想よりも速く低下しており、殻を形成する生物、サンゴ礁、漁業を脅かしています。
- **参照:** Doney et al. (2020)。

炭素吸収源

- **予測:** モデルは、天然の吸収源（海洋と森林）が世紀を通じて人為的なCO₂排出の約半分を吸収し続けると仮定していました。
- **現実:** 観測では、吸収能力が弱まっていることが示されています。NASAのOCO-2衛星は、2023年に過去20年で最も弱い陸上吸収源を明らかにしました。アマゾンの一部はすでに純炭素源になっています。
- **参照:** Gatti et al. (2021); NASA OCO-2。

地球のエネルギー不均衡

- **予測:** 徐々に増加すると予想されていました。
- **現実:** 衛星データは、2005年以来、地球のエネルギー不均衡が2倍になり、2023年には約1 W/m²に達したことを示しています。これはIPCCの「最良の推定」の2倍です。
- **参照:** Loeb et al. (2021)。

結論は避けられません：世界は**科学よりも速く**動いているのではなく、**IPCCの慎重なコンセンサスよりも速く**動いています。

科学的方法と滑走路

科学的方法は、予測が失敗した場合、仮説を調整する必要があると求めます。しかし、気候科学では、変化の方向は正しかったものの、ペースと深刻さは一貫して過小評価されてきました。強力に再調整する代わりに、IPCCの報告書は曖昧です：「低い確信」、「中程度の合意」、「2100年までに非常に可能性が高い」。この言語は政治的コンセンサスに役立ちますが、科学的緊急性を裏切ります。

その結果は致命的です。政策立案者と一般市民はまだ時間があると安心させられますが、実際には安全な停止距離はなくなっています。

気候変動は紙の上で展開されているものではありません。それは高リスクの着陸です。

- **飛行機:** 化石燃料の慣性で重い人類文明。
- **滑走路:** 排出量、弱まった吸収源、見くびられたフィードバックによって短縮された炭素予算。
- **ブレーキ:** 政治的遅延によって鈍化した緩和と適応。
- **パイロット:** 計器を誤読し、滑走路を過大評価し、ブレーキ動作を過小評価する選ばれた指導者。

航空事故では、余裕の錯覚が滑走路のオーバーランにつながります。気候でも同じダイナミクスが当てはまります。炭素予算と吸収源の弾力性に関する錯覚は、私たちをオーバーランの端に導きました。すでに引き返せない点を過ぎているかもしれません。

墜落は絶滅を意味しないかもしれませんが、私たちを支えるシステム（食料、水、健康、安全、安定性）の連鎖的な失敗を意味します。

気候、偽善、責任の悪魔化

気候否定と政治的暴力の道徳的失敗は別ではありません。それらは人類の偽善の深さを明らかにする方法で交差します。西洋の政府とメディアは、しばしばイスラム教徒を脅威として悪魔化し、「テロリスト」とラベル付けします。しかし、同じ国々が地球の気候を不安定にし、中東、北アフリカ、南アジアのイスラム教徒が多数を占める地域を含む世界の広大な地域をますます住めないものにしています。

皮肉は明らかです。多くのイスラム諸国の一人当たり温室効果ガス排出量は、西洋のほんの一部にすぎません。これらの地域の多くのコミュニティは、必要性または設計によって、工業化された社会よりも持続可能性に近い生活を送っています。そして、イスラム教では、**カリファ**（創造の責任）は核心的価値です。それは人類が地球の世話を委ねられていると主張し、それを略奪する許可を与えていません。この倫理は、短期的な利益のために森林、海洋、大気を犠牲にするシステムと完全に相容れません。

西洋諸国が小さなフットプリントを持つ人々を「テロリスト」と呼びながら、自国の経済が惑星の崩壊を推進しているとき、それはまさに鍋がやかんを黒いと呼ぶようなものです。さらに悪いことに、それはより深い不安を露呈します：責任と抑制の価値は、否定、消費、支配に基づいて構築された抽出秩序にとって脅威です。**歴史は誰がテロリストだったかを判断します。**

結論

IPCCは人類に計り知れない知識を与えましたが、慎重なコンセンサスでその警告を隠すことによって、政策立案者にすでになくなった時間の錯覚を与えました。私たちは、パイロットが計器を誤読し、滑走路を過大評価し、アスファルトの滑りやすさを過小評価した飛行機の乗客です。墜落は今、最も可能性の高い結果です。

しかし、これさえも深い真実を見逃しています。人類の生存の価値は、気候を安定させることができるかどうかだけにかかっているではありません。それは私たちの道徳的羅針盤を無傷に保つことができるかどうかにもかかっています。**2023年後半以降続いているガザの破壊は、気候崩壊と同じ病理を示しています。必然と扱われる残虐行為、止められるプロセスが加速することを許されています。**海面上昇と燃える森林への反応を麻痺させる同じ盲目さは、政治的に都合が悪いときの人間の苦しみへの反応も麻痺させます。

脆弱な者を守らないなら、残虐行為を拒否しないなら、気候崩壊との闘いで私たちは一体何を保存しようとしているのですか？惑星とその人々を裏切りながら自らを祝う文明は、存続する権利を獲得していません。

気候危機は、私たちが物理的な滑走路を明確に見ることができないことを示しています。ガザは、私たちが道徳的な滑走路も見ることができないことを示しています。それらは共に、オーバーランが目前に迫っているだけでなく、すでに進行中であることを証明しています。両方ともプロセスであり、両方ともまだ止められますが、人類がこれまで拒否してきた勇気を見つげ出す場合に限ります。